

目的 今日既製の主流の衣生活において、着心地の良い衣服を設計するためには、不特定多数の人体への適合を考えた。衣服のサイズ設定、型紙設計が行われなければならない。そこで、体型の特徴をとらえて、典型的に把握するために、個々の身体計測項目ではなく、計測項目相互間の関連性を多次元的にとらえながら、加齢に伴う変化をあきらかにし、比較を行う必要がある。資料は、1978年から1981年までの通商産業省工業技術院「日本人の体格調査」を用いた。

方法 前回は、年齢別および身長別主成分分析を行い、衣服設計やサイズシステムに有効と思われる計測項目を選択し、計測項目間の関連性や体型特徴をとらえたが、今回は、年齢による体型への影響をあきらかにし、サイズ区分の参考とするために、サイズ設定に必要となる二項目間、三項目間の多次元空間における年齢区分ごとの度数分布をもとめ、項目間の特徴をとらえ、計測値の出現範囲と出現頻度をあきらかにし、衣料サイズ設定と体型把握の際の年齢区分についても比較、検討した。

結果 体型を総合的に概観でき、衣服を設計する上で必要となる計測項目間の年齢区分別二次元、三次元度数分布から、項目間の特徴をとらえ、設けるべき衣料サイズの数と範囲、そのカバー率について情報を得ることができた。また、対象とする身体部位による有効な年齢区分がもともとあり、年齢変化に伴う成人女子の体型特徴を捉えることができた。以上の結果から、衣料サイズ、サイズピッチの設定について、低年齢層では、サイズ数を少なくできる傾向が認められた。